

報道関係 各位

令和3年7月27日

(担当)

企画総務部企画総務グループ

TEL: 076-431-6156 FAX: 076-431-5274

運動・睡眠習慣が悪い富山県，特に県西部が悪い傾向 ～ 約18万人の健診データから県内の偏りを分析～

全国健康保険協会富山支部^(注1)（以下「当支部」という。）は、令和元（2019）年度の全国健康保険協会管掌健康保険に加入する者の健診データ（以下「協会データ」という。）及び富山県内の市町村国民健康保険に加入する者の健診データ^(注2)（以下「国保データ」という。）から、運動習慣及び睡眠習慣に係る地域偏在を分析しました（cf. 別添1）。

< 1. 都道府県別の比較（協会データ） >

当支部加入者の運動習慣は全国ワースト3位、睡眠習慣は全国ワースト1位

令和元年度の協会データ（約850万人分）を用いて、運動習慣及び睡眠習慣に係る問診票の回答結果を加入支部別に集計した結果、当支部加入者の運動習慣における要改善者は72.6%（全国ワースト3位）、睡眠習慣における要改善者は48.4%（全国ワースト1位）でした。



< 2. 県内市町村別の比較（国保データ+協会データ） >

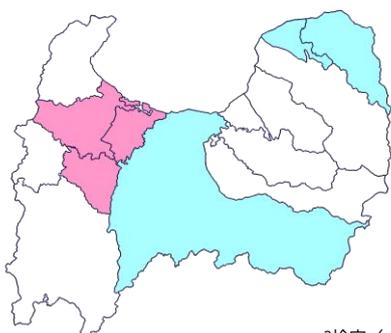
特に県西部が悪い傾向

令和元年度の国保データと協会データ（計約 18 万人分）を用いて、運動習慣及び睡眠習慣に係る問診票の回答結果を県内市町村別に集計した結果、運動習慣、睡眠習慣ともに高岡市、砺波市、射水市が有意^(※)に悪く、県西部への偏りがみられました。また、大半の地域において、60～70 代よりも 40～50 代が悪い傾向となりました。

(※) 有意とは、統計学の用語で、「確率的に偶然とは考えにくく、意味があると考えられる」ことを指す。

運動習慣における要改善者の割合

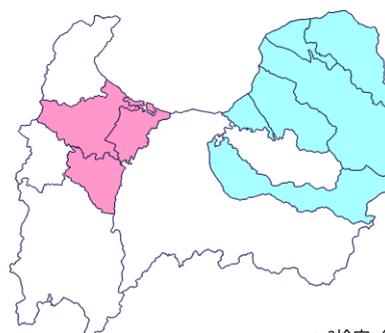
● 有意に多い ● 有意に少ない



χ^2 検定 (p<.01)

睡眠習慣における要改善者の割合

● 有意に多い ● 有意に少ない



χ^2 検定 (p<.01)

< 3. 当支部の取組 >

運動習慣及び睡眠習慣の地域偏在の状況や改善に向けた取組を周知

生活習慣の不良は、生活習慣病の発症や医療費の負担増、QOLの低下等につながることから、加入者の健康の保持増進においては、現状を広く周知し、生活習慣の改善を推進することが重要です。今般、当支部では、加入者の運動習慣及び睡眠習慣の改善を目的に、令和3年8月より10月までの間、地域偏在の状況や改善に向けた取組の紹介等についてWEB広告配信等を実施します（cf.別添2）。



今後、当支部では、加入者の健康の保持増進のため、引き続き生活習慣の改善に係る周知を図ってまいります。つきましては、本取組を各種報道等で積極的にご周知いただきますようよろしくお願い申し上げます。

(注1) 平成20年10月1日、国の政府管掌健康保険事業を継承し、これを運営する法人として設立されました。主に、中小企業で働く従業員とその家族が加入する健康保険の保険者として健康保険事業を行っています。約240万事業所、約4,000万人の加入者からなる日本最大の医療保険者であり、当支部には、県内約1万9,000事業所、約41万人の方が加入されています（令和3年3月時点）。

(注2) 国保データは、「富山県の地域分析に使用するデータの取り扱いに関する覚書」に基づき、個人が特定されない形式において富山県より提供を受けたものです。